

平成30年10月3日
国土交通省
大分川ダム工事事務所

記者発表資料



**【速報】台風24号に伴う9月28日からの豪雨において
大分川ダムに洪水の一部を貯留し
洪水処理の効果がありました。**

《発表概要》

- 平成30年2月20日より試験湛水中の大分川ダムにおいて、洪水の一部を貯水池に貯留したことにより、ダム下流において河川の水位を避難判断水位（4.20m）まで上昇させないこととなりました。
＜七瀬川胡麻鶴観測所地点において河川の水位を約64cm低下＞（別紙参照）

大分川ダムへの最大流入量及び最大放流量

最大流入流量：毎秒287.35立方メートル（30日13時40分時点）
最大流入時放流量：毎秒45.15立方メートル（約84%をダムに貯留）
最大放流量：毎秒81.94立方メートル（30日15時50分時点）
ダム貯留量：約332.5万立方メートル（30日17時47分時点）

今市雨量観測所：総雨量318mm（28日22時～30日16時）
最大1時間雨量61mm（30日12～13時）

※上記値は速報値や推定値を含んでおり、今後の調査等により変更となる可能性があります。

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 大分川ダム工事事務所
大分市舞鶴町1丁目3番30号
TEL：097-538-3391 FAX：097-538-3391
Eメール：oitagawadamu@qsr.mlit.go.jp

技術副所長 池浦 光文（内線 204）
調査設計課 課長 杉田 聡（内線 351）

大分川水系大分川ダム試験湛水中の効果（平成30年台風24号）

- 台風24号に伴う豪雨により、大分川ダム上流域においては、7月豪雨の192mmを大幅に上回る318mm(9月28日22時～30日16時)の累加降雨を観測しました。
- 大分川ダムは、現在、本格運用前の試験湛水中ですが、7月豪雨の約2倍となる最大332.5万m³(25mプール約9236杯分)の洪水を一時的に貯留し、ダム下流の七瀬川の水位低減を図りました。
- 大分川ダムの洪水貯留がなければ、七瀬川の水位は避難判断水位を超過していたと推定されます。
- 大分川ダムの完成に向け、引き続き試験湛水を着実に実施していきます。



◆大分川ダムの状況

約242.2m³/秒(=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川へ
流れた水量
45.15m³/秒
(9月30日13時40分時点)

大分川ダム

①大分川ダムへ流れてきた水量
287.35m³/秒
(9月30日13時40分時点)

最高貯水位: 181.43m
(9月30日17時20分時点) 約5.06m上昇

降雨前の貯水位: 176.37m

約3,325,000m³の水を貯め込んだ。
これは25mプールの約9236杯分です。

今市雨量観測所(累加雨量): 318mm(9/28 22時～9/30 16時まで)



大分川流域図



※本資料の数値は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。